

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書に明記しており、玄関に掲示してある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念だけ大きく書き出し常に職員の目の届く所に表示している。朝礼時、職員全員で唱和するようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に額に入れて掲示している。家族へは契約書、重要事項説明書により説明し理解していただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に開放し自由に見学等を実施している。又、近所の方にも散歩時に声をかけて下さったり、お花や作物等を頂くこともある。近くの診療所では挨拶や声かけ等でふれあっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭には参加見学しており、当園のイベントにも来ていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>まだ地域に貢献は出来ていない状態。これから取り組みが必要。</p>		<p>地域、社会に役立つことの一つに車椅子助成の缶タブ集めをやっている。散歩時道路の空き缶を拾いながら歩いている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>指摘された改善点は留意して対応している。</p>		<p>カレンダー作りや月間行事予定表作りは、入所者と共にグループワークの一環として引き続きやっていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回位の割合で実施している。地域から当園についての要望等も伺いそれに添う様心がけている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>出来ていない。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>ご家族からの相談については介護支援専門員が相談に応じている現在成年後見については1人成立。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員研修で人権に関して学んだ。又、日常の介護業務の中でも、些細な言葉声かけや態度にも注意を払っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に説明して理解して頂いている。又ご家族様には来園面会時を利用してご不満、疑問がないかお尋ね居ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の中で常に利用者の声に耳を傾けカンファレンスや日々の申し送りで意見の交換を行っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>近況、健康状態については連絡事項がある時は必ず一言申し添えるようにしている。園全体の動きについては成寿園の広報誌を毎月お送りしている。特変がある時は必ず家族に連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を設置している。面会時にご要望やご意見を聞く様にしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の業務や申し送りで意見を述べる必要があれば申し出るようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行っている。特に受診や行事等においては優先的に対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では合同研修会。社外では実践者研修に参加している。		社外研修を多くの職員に受けさせたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内、同法人内の施設とは頻りに交流、活動をしている。		他地域外のグループホームを見学し取り組みの様子を知りたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リフレッシュ休暇、希望休等を取り入れている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員によって個人差があり、職員の個性の良いところを發揮できるようにしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約時には丁寧に説明を行い、入所当初は十分に声をかけ合い少しでも早く慣れていただけるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上		電話等の相談は介護支援専門員、管理者が行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームのみならず、特養、老健の入所も視野に入れて本人に適したサービスを提供できるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初回面接時、契約時に説明を行っているが本人が受容しているか否かは不明である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	身体のお世話はしておりますが、心は学ぶ事が多く感謝する気持ちや考え方等感化されています。		職員の力量に個人差がありますが常に理念に基づき精進していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を良く伺ってそれにそって日常の声かけや、生活を行うよう心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	階段にご本人の写真を掲示しご家族に自由に持って帰って頂いている。		一筆短文のお便りや書けない方はご自分のお名前だけの直筆等をスナップ写真、コメントを添えて非定期ではあるが郵送している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	島内の方は、受診時、馴染みの方との言葉掛け。島外の方は面会時、ドライブを兼ねての外出や近くの散歩をご一緒にお勧めしている。		入所者が気に掛かっている家や墓や畑に外出時ご家族に連れて行って頂くよう話し合っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	しっかりしている方が認知の進んでいる方の話し相手や声かけができるよう席を配慮したりキッカケ作りを心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	連絡があれば相談にのっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの立案時、必ず本人の希望を聞く様にし反映させている。		家族来園時、ゆっくり話を聞くようにしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに力を入れ(センター方式利用)本人の生活を把握するようにしている。		家族来園時、ゆっくり話を聞くようにしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々発する言葉、行動、身体の状態等、日誌やケース等に記入し職員間で情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りやケア・カンファレンスで意見を求めプランに生かした介護計画を作成している。(一言メモや気付きの利用)		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、評価(モニタリング)を行い、見直しを図っている。また随時チョットカンファや毎朝朝礼時の気付きで状態変化に即した計画変更をしている。		職員のプランに対する意識や見方のレベルアップを目指す。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース、日誌に毎日記録している。		状況のみならず、入居者の日々の表情、感情や言葉についても記入するようにし、それを活かすようにしている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム、特養、老健、ショートステイ等ご家族とご本人の希望に当てはまる支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員から情報を得たり、ボランティアの慰問を受けている。消防は火災訓練を受けている。		最近、中学生等の体験学習が無いが又来て入所者と触れ合って頂きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	靴や杖等の福祉用具の購入について地域のケアマネジャーと話し合っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働して必要に応じて当施設を利用。		経由して入所された方は、センターの方々も折に触れ様子を見に来られる。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の協力医院と連携している。必要に応じ専門医への受診もDr.家族と相談して行っている。		

グループホーム 大浜 (あび)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同上		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している老健の看護師や薬剤師に特変がある時は相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	受診時、家族も含め主治医とカンファレンスを行い、本人、家族の希望を取り入れたターミナルケアについて話し合っている。その結果や方針について職員に周知している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化や緊急時の対応、体制、連絡方法についても話し合い準備を行っている。		心配蘇生法の講習を全職員にしたい。(現在一部の職員はAEDの講習を受けている)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	その都度、本人と家族に同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけ、対応に不適切があれば、その場で注意を促すようにしている。記録等は関係者以外に公表していない。</p>	<p>押しつけではなく選択や尊厳を守れるよう声かけの工夫、職員の意識の向上を図りたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常の会話の中から思いや希望を聞き出している。</p>	<p>介護者本位にならず本人の潜在能力を引き出せるような(待つ支援)を心掛けている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の時間軸は決まっているが本人の意思を聞き決して無理強いせず本人の意思を尊重している。</p>	<p>職員の意識の徹底を図るとともに(職員)のレベルアップに努めたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望があれば理容・美容院を利用している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの嗜好は十分に満たされないが、茶碗拭き、テーブル拭き、箸並べ等はその方の出来る能力に応じて手伝って頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>散歩や受診の時等、外出出来る時、本人の好みの物を買って物している。(酒、たばこはいない)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パットやリハパンに頼らず定時のトイレ誘導を行っている。		排泄パターンの周知の為24時間対応のチェック表を作り活用している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表で曜日や時間帯の変更はできるが職員体制上、夜間は難しい。		希望のある方は毎日でも、又必要であれば適宜シャワー浴も行っている。(便失禁等)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	TVをつけたり、ソファでくつろいだりして頂いている。またエアコンや寝衣の調節等で入眠しやすい環境を心掛けている。		状況によっては湯タンポの利用で喜ばれている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴に合わせて日々の中で能力を活かした役割や手伝いをして頂いている。季節行事、誕生会、買い物ツアー、喫茶コーナー等楽しみを盛り込んでいる。		月1回の楽しみ会(おやつ作り、手作り惣菜等)復活させたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は職員がしているが、買い物ツアーでお金を使う喜び、選択する楽しみや機会を作っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調と天候の許す限り、毎日の散歩は日課としている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月のうち何度かドライブ、買い物ツアーまた家族の来園時には外出自由で、ご家族と共にドライブや軽食、墓参り等をされています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの手紙、電話は無理ですが時折ご家族への請求書、連絡事項と共に近況とスナップ写真を添えて郵送しています。		文章は無理で名前だけしか書けない方が多いのですがグループワークを利用して文字を書いて頂いています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来園は自由です。		訪問時食事をご希望であれば、居室でとって頂いている(ルームサービス)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しており、取り組んでいる。但しケア・カンファレンスにおいて安全上必要な場合はご家族の同意を得て夜間のみ転落防止で柵を使うこともある。		その場合も1ヵ月に1回はカンファレンスして継続か否かを検討している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室を使用されている時は業務をしながら常に注意を払い安全を確認している。夜間は2時間毎、要観察の場合は随時巡室している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知判断力低下の方が居る為利用者の共同スペースには危険な物は置かないようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に関する情報を共有し再発を防ぐ為の検討と対応を協議、実践している。		体操、ストレッチ運動をして、下肢筋力低下防止、転倒予防に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日々の業務の中で指導に当たっている。		その時々に応じて、現出勤者で現場研修をすることがある。(例えばオヤツにきな粉餅を出す場合『のど詰め』に対応する応急処置法を手短に実践する)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練をしている。朝礼時に火災発報の唱和をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族の来園時、現在の状況を説明し、この方のリスクも説明、それを防ぐ為に職員でどう取り組みをしているか話し、理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝礼時の報告やバイタル、顔色、様子の変化から体調を把握し、共有して対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や申し送りにより職員が周知するようにしている。不明の場合は薬処方確認する		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日便秘状況をチェックし、水分補給と散歩、運動等に努めている。		薬に頼りすぎずヨーグルト、牛乳、みかん、その他セナイ質の食物を採るようにしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来る方は自分で義歯をはずして洗って頂く。出来ない方は職員がついて介助する。夜間のみ義歯を預りポリドント洗浄。		義歯の有無にかかわらず歯茎や舌苔のブラッシングの徹底を職員に図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量のチェックで食欲を測り低下の方には栄養補助を検討。嚥下困難にはトロメリン対応、ミキサー食、ゼリー、粥で対応。水分補給は十分に気をつけている。		水分補給量を知る取り組みをする。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、実行し予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎夜、まな板、フキンの消毒。適宜、冷蔵庫、食品庫の清掃、消毒。利用者、職員の手洗いの徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は日中開放している。段差をなくす為職員の手作りでスロープをつけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に障子を配し、柔らかな光で入居者を和ませている。又入居者により草花を生けて季節感を感じることができる。		ゆず湯、菖蒲湯、よもぎ湯等おりませ、季節、風習を味わって頂く。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーや食道にソファを置き思い思いに、くつろいでいただける空間を作っている。		

グループホーム 大浜 (あび)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具は少ないが、写真や自分で作った陶芸作品やリース等飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一部屋ごとに、こまめに空調は調節できるようになっており、また網戸を配し自然の風も入るようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとし、廊下、トイレ、浴室等は手すりをつけている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは大きく書き出し、居室には表札がわりに大きな名札、また自室への誘導を兼ねた 印、マスコット人形等を下げて目印としている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りに花壇を作っている。縁側には布団を干している。		畑作りをしたい。花壇の草取りや水やりは散歩への誘導に利用している。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 大浜 (あび)

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

散歩は、体調や天候が許す限り毎日行っている。お陰で身体の抵抗力もつき風邪ひきもでません。車イス助成の缶タブ集めをやっています。はじめは、入所者の意向で協力していましたが、散歩時の缶拾いはイ)地域の美化、ロ)社会に役立つ、ハ)利用者の散歩への誘導と一石三鳥です。今はその利用者も亡くなりましたが、意志を継いで続けています。行事やイベントは単日だけでなく、その日に向けての準備や雰囲気作り、飾り付け等でイベントに向けて意識付けに役立っています。散歩と共に足浴や立位訓練、生活リハビリ等で下肢筋力、身体機能の低下防止に役立っています。買い物ツアー、ミステリーツアー等で楽しんでもらっている。